



堀米庸三

堀米 庸三（ほりごめ ようぞう）

大正2年（1913）、谷地町沢畑（現河北町谷地）に生まれました。氏は第二次世界大戦後の中世西洋史研究をリードした有名な歴史学者です。10歳の時、両親と共に東京に出ますが、毎年夏休みには祖父のいる実家に帰省しました。それは昭和8年（1930）の祖父の没後も続きます。

『中世国家の構造』は、西洋中世世界の普遍的原理を追求するのに各国家の内部事情に注目して、封建制社会の構造的把握に迫ったもので、すぐれて論理的にドイツを中心とした西洋中世史研究に確固たる地位を築いたとされます。一方、その知的誠実さが教会史・美術史・思想史・法制史、社会経済史など学問の領域を広め、優れた文明批評にも独自の境地を開きました。北海道大学、東京大学時代を通して、その門下から西洋史研究の俊秀を数多く育てました。

東大紛争の中で、文学部長に推され「收拾ではなく解決を」として、授業再会に至る苦勞は知られています。

一高在学中は、オールラウンドの選手として陸上競技部に属し、他に野球、登山、スキーは「堀米スキー教室」として有名なほどのスポーツマンでもありました。

生家が現在の『河北町紅花資料館』です。

（写真提供：山形県立図書館）